

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172500247		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム神戸ひまわり		
所在地	岐阜県安八郡神戸町加納178番地		
自己評価作成日	令和4年12月2日	評価結果市町村受理日	令和5年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosvoOd=2172500247-00&amp;ServiceOd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosvoOd=2172500247-00&amp;ServiceOd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年1月9日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為、以前に比べてボランティア等の外部との繋がりは薄くなりましたが、生花教室は先生が材料を持って来て頂き、施設内で製作してインスタやホームページのブログにて外部に発信しています。町のイベントにも出来るだけ参加出来る様に取り組んでいます。職員のスキルアップの為に合同研修を県の補助金を利用し開催しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自由に外出を希望される利用者に対して地域へ協力を依頼したり、事業所でGPSを購入して持たせたりして安全に外出できるように取り組んでいる。利用者の思いを大切に毎日の入浴や夜間入浴、飲酒、買い物など利用前の生活ができるように取り組んでいる。職員同士で意見が言いやすく、積極的に話し合うことができ、レクリエーションや行事を職員の主導で行っている。コロナ禍で毎年行っていた焼き芋を中止していたが、職員から提案があり中庭で行った。代表者はシフトの希望や急な休みなどを認めて職員が働きやすい環境作りを心掛けている。利用者、家族、職員の要望や意向を大切にしながらやりがいを持って自由な生活が送れるように取り組んでいる事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「口を出さない。手を出さない。見逃さない。」の理念をもとに業務にあたっている。3施設合同で理念の共有の為に勉強会を開催し、実践につながるようになっています。	管理者は、職員が理念を念頭に置きサービスが提供できるように具体的に事例を挙げて話し合っている。日常的に現場で作業を行い気が付いた時は職員に説明し理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になり以前の様にボランティアさんに施設内に入って頂き行う事が難しくなりましたが、中庭で行えるボランティア行事や生花の材料だけ提供して頂き施設内で再作して完成した写真をインスタ等に上げています。	天気の良い日には散歩に出掛けて近所の方と挨拶を交わしている。コロナ禍でもボランティアと相談しながら生け花が出来るように工夫して取り組んでいる。事業所の活動内容を定期的にSNSを活用して発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が変更になり以前の様な地域貢献が出来ていない。認知症啓発事業に利用者様と一緒に参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍、管理者の変更により8月・10月が行えていないが12月には行える様計画中です。そこで、色々な意見を頂きより良い施設になります。	感染状況に配慮しながら書面もしくは集合で会議を開催している。事業所の活動状況やヒヤリハットを報告して意見を聞いている。自由に外出する利用者が事業所に迷わず帰れるように町内に目印の看板を設置することを相談している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市町村を訪問して、現在の情報や、ひまわりで出来る事を相談している。市町村からの要望に答える様に取り組んでいる。	管理者は、事故報告書や事業所のたよりを持って広域連合に行って情報を交換している。事業所の空き情報や緊急の受入れなど相談している。町主催の認知症ウォークの参加依頼を受けて利用者と一緒に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除」スローガンを提示していません。職員の中で、権利擁護推進員養成研修を受講し、年2回の勉強会、3か月に1回の身体拘束排除委員会の開催などを通じて全職員が認識するようになっています。	カンファレンスの時に身体拘束について具体的な事例を挙げて職員間で話し合っている。外出を希望される利用者に対して、家族に説明し同意を得ている。帰れないことを想定して地域に協力を依頼して自由に外出できるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修で、虐待について勉強しています。職員同士が虐待がないかお互いに確認し合い、虐待防止・早期発見に努めています。特に言葉遣いを職員同士チェックしています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人申し立ての相談を受けたり、地域のNPO法人と連携し、成年後見人の申し立ての手続きのサポートをお願いして後見人を付けた方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や運営規定・サービス内容説明書をホーム内に張り出しています。入居者及び家族にわかりやすく説明しています。わからない事があれば、理解や納得できるまで説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族会もしくは家族面談を実施して意見や情報交換をする場を設けています。随時、苦情やご意見を頂いたときは記録して改善に努めています。	面会や受診など事業所に家族が来た時に近況を伝えて意見や要望を聞いている。家族より外出や運動、毎朝ヨーグルトを食べさせて欲しいと要望があり取り組んでいる。利用者よりお菓子を買いたいと要望があり職員と一緒に買い物に出掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、施設内ミーティングをして、職員からの意見や要望を聴いています。その他、急を要する意見は随時お聞きして、早急に対応しております。	管理者は、ユニット毎の会議に参加して職員の意見を聞いている。レクリエーションや行事は職員が主導で行っている。職員より焼き芋を行いたいと提案があり中庭で行っている。浴室を改修にするにあたり職員間で意見を出し合ってリフト浴を導入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	岐阜県介護人材育成事業者認定事業に申請し、職場改善に努めています。現在はグレード2です。職場環境の改善をしています。年2回職員人事評価や面談を実施して、働き方の変更やスキルアップに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の外部研修の計画を立て、職員のスキルアップをしています。法人内でも合同研修を実施して学ぶ機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は出来ていたが、管理者・施設長が変更になり今現在は出来ておらず、今後新しいネットワークが出来るように検討中です。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人が不安や困っている事、本人の希望する生活の把握に努めています。入居により環境が変わり新たな困りごとが出てきた時に随時対応して不安なく生活が送れる様に支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や来所時に、不安に思っている事や要望をお聴きし、お互いに納得や理解を得ながらサービス提供しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族には面談時に施設内を見学して頂き、質問をさせて頂いています。またその方にあつた施設やサービスの紹介も行っています。施設に慣れて頂ける様に1ヶ月のケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員であったり、生活を共にするパートナーとして、喜怒哀楽を共にしていける関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者様と一緒に馴染みの店に補聴器の掃除や調整をしに行っていただき、その手入れの方法などをお聞きしている。週2回面会に来られるご家族様に細かい事もお話しして介護に生かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自身の会社に顔を出したり、自宅に行ってお参りしたり出来るように支援しています。ご家族との面会もコロナ禍で制限はありますが、テレビ電話を使用したり、窓越しの面会をして関係が途切れない様に支援している。	利用者の気持ちを家族に伝えて職員が同行して自宅の仏壇にお参りしたり、利用者が希望する行きつけの店に買い物に出掛けたりしている。利用者の家族や友人が来られた時は中庭や窓越しで面会できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の個性を把握して、その方が孤立しないように努めています。話が合う利用者の方がいれば、席を一緒にしたり、合わない方がいれば、職員が間に入り少しでも関わりが持てるように支援しています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できるように窓口を設けてあります。またほかのサービスを要望される時には情報提供して今後の生活の支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方がどんな生活がしたいか、昔からやっていた事など、普段の生活で聴き取り計画の中に取り入れながら支援しています。意思疎通が困難と思われる方の希望・意向は本人の立場に立って考え、ご家族の情報等を踏まえて検討しています。	ドライブに出掛けた時や日常的な会話の中で利用者の思いや意向を聞いている。入浴時や夜間など1対1の時に聞くことも多い。困難な方は、家族から情報を得て職員間で共有し、職員から利用者に声を掛けて表情やしぐさから思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況をご家族・かかりつけ医、関係者等から情報収集を行い、既往歴・生活状況・性格など把握し、サービスにつなげる事ができるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各棟の会議などで利用者の1日の生活パターンを情報収集して把握しています。心身の状況は専門知識が必要な場合は、医師や看護師に相談し支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い変化を記録に残し、ケアプランの変更時には担当者会議を行い、ケアプランを変更している。途中で大きな変化があった時は、記録に残し一時的なものかプランの変更が必要か検討している。	職員が話し合ってモニタリングを行っている。計画作成担当者は原案を作成して職員に確認して家族に送付し意見や要望を聞いている。意見がある場合は計画を作り直して再送しているが、事前に計画について家族の意見を聞いておらず意見や要望を踏まえた話し合いが行われていない。	家族に利用者の現状や近況を伝え計画に対する意向や要望を把握して、職員間で話し合い気付きやアイデアを反映した計画を作成できるように取り組んで欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の生活状況、バイタル、排泄、水分量、食事摂取量、服薬などが記録されています。ケアプランに沿ったケアの実践・結果や気づいた事を記録し、情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出や買い物、通院(提携医以外)などそれぞれ必要な場合、本人・家族の状況に合わせて柔軟な支援をしています。身寄りのない方の役所手続きなど支援しています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方から情報を頂き、地域の文化祭・地域の行事などに参加しています。定期的に地域のボランティアの方に来て頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は提携医として、病院・認知症医療疾患センター・歯科医などと協力しながら、往診、通院の体制が整っています。家族の要望で提携医以外のかかりつけ医を診察される方には日々の情報提供しています。	従前のかかりつけ医の受診は家族が同行している。家族に口頭や書面で利用者の状態を伝え、結果を確認している。家族の都合が悪い場合や緊急時は職員が同行し結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異常がみられた場合、看護師に伝え、必要であれば診察を受けられる体制が整っています。夜間や緊急時も速やかに受診できるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師を中心として、入院前の利用者の症状、様子などを医師に報告して、早期退院に向けて病院関係者との関係作りに努めています。入院中も本人の様子を把握したり、ご家族との情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向に沿い、医師・看護師・介護士等が話し合いターミナルケアにも取り組んでいます。様態が急変した場合はその都度ご家族に連絡し対策を検討し、ケアプランに反映させています。	契約時に事業所の方針を伝えている。状態の変化に伴い早い段階から家族に相談して意向に添えるように取り組んでいる。医師から家族に説明する時に職員も立ち会って情報を共有している。看護職員が介護職員に個別の対応について説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修を受けたり、施設内で緊急時マニュアルを使って研修を行っています。個別に起こる病気の急変や事故で対応方法がある場合は周知し全員が把握できるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器・スプリンクラー・通報装置を設置しています。年2回夜間想定避難訓練・通報訓練・消火訓練を実施しています。食料備蓄3日分あります。	夜間想定を含めて年2回訓練を行っている。事業所内にハザードマップを掲示して職員に意識付けている。食糧や水、防災袋などを備蓄している。運営推進会議で訓練等について協力を依頼しているが住民の協力が得られていない。	運営推進会議や地域に情報を発信して、災害時や訓練に地域の協力が得られるような関係が構築できるように取り組んで欲しい。

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の思いを尊重して、その人にあった支援を心がけています。利用者を中心として考え、人生の先輩であることを意識し、声掛けや対応に注意しながら支援しています。プライドを傷つけないように配慮して対応しています。	管理者は、職員の声掛けや対応で気になる時はその都度伝えている。排泄や入浴の介助する時は羞恥心に配慮したり、自分がされて嫌なことを利用者にはしないように心掛けたりしている。利用者の個々の情報を他の利用者に聞こえないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様にいろんな選択肢を用意し、自己決定できるように支援しています。食事のメニューに意見を取り入れたり、買い物・喫茶店・外出など個々に決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を考慮して、本人のペースで過ごして頂いています。家事活動など本人がやりたい事を職員と一緒にやっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の始めに鏡の前で身だしなみを整えてもらえるよう支援しています。自分で化粧される方や髭をそる方にはうまくできない所を手伝ったり、お気に入りの服を着て頂ける様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや千切り・盛り付け作業をお願いしています。食器洗いやお盆拭きなど、本人の調子に合わせてやって頂いています。リクエストメニューを取り入れ、好きな物を提供出来る様にしています。	季節や行事に合わせて利用者に食べたい物を聞きながら献立を作成している。利用者は、下調理や食器拭きなど出来ることを手伝っている。中庭で収穫した野菜を利用者の好みに聞いて調理している。希望があれば飲酒することも出来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量は1000cc～1200cc補給できるよう工夫しながら支援しています。栄養摂取量が少ない利用者様には栄養補助食品や好みの物を食べて頂いています。また、食事制限(禁止食材)がある利用者様への対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕、出来る限り自身で歯磨きをして頂き、できない所は手伝っています。就寝前に義歯を外し洗浄剤につけています。歯科医師や歯科衛生士の指導の下、チェックして適切な治療を受けています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の記入をして排泄パターンを把握し、定期的にトイレ声掛けしています。1人1人に合わせたサイズやオムツなどを使っています。専門家による講習会も開き、オムツのあて方や使い方を学んでいます。	トイレに誘導することを基本としている。利用者の状態を把握し自立に向けて支援することで改善された方もいる。排泄チェック表でパターンを把握して職員間で話し合いながら少しでもトイレでの排泄が出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、食事やおやつなどで乳製品を摂取出来るようにしています。排泄の記録を確認しながら、便秘が続けば医師に相談しています。また体操や適度な運動も進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに週2回以上入浴して頂いています。毎日入浴したいという要望の方には、できる限り対応しています。着衣着脱・洗髪・洗身が自分で出来るように支援しています。	入浴の回数や湯温、夜間入浴など利用者の要望に対応している。嫌がられる方には時間や日にち、職員を変えながら無理強いしないように心掛けている。入浴剤やゆず湯、会話を楽しみながら気持ちよく入浴できる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた時間で起床・昼寝・就寝が出来るように支援しています。不眠や昼夜逆転がある場合は、日中の活動を工夫したりしています。医師とも相談して改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が支援しています。必ず名前・日付・飲み残しがないか職員2名で確認しています。服薬に変更があれば薬の名前を申し送りしたり、服薬ファイルが確認できるようになっています。万が一誤薬があった場合、看護師に報告し医師の適切な判断を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段のかかわりで楽しみや喜びを把握し、1人1人に合った支援をしています。買い物が好きな方には一緒に出掛けたりしています。食器拭きやおしぼり畳みを日課にされている方も見えます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行きたい所を聴いて、外出計画を立て出かけています。個別に喫茶店や銀行・役場など本人と一緒に掛けたり、買い物はお菓子や畑の苗、衣類などほしいと言われる物を買に行っています。	利用者と一緒に散歩や買い物に出掛けている。バラや桜、菖蒲など季節毎にドライブに出掛けている。家族から要望があり、家族と一緒に法事に出掛けている方もいる。自由に外出される方には事業所のGPSを持たせて万が一に備えて外出を支援している。	

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に合わせて、お金を所持できるように支援しています。ほしい物があれば職員と一緒に買い物に出かけたり、本人様が自己にて買いに行かれます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけられるように支援しています。年賀状や手紙のやり取りができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースにはソファやテレビが配置されて、ゆったりと過ごせるようになっています。自然に自分の座る場所が決まってきました。日付がわかるように日めくりカレンダーをめぐってもらっています。季節の歌や飾り・行事の写真を壁に貼っています。	職員は、リビングや食堂の温湿度に気を付けて定期的に換気を行っている。気の合いそうな方や一緒に取り組みそうな方を同じテーブルにして楽しく過ごせるように配慮している。玄関先やリビング、廊下に季節の作品を飾り利用者の目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の居室にはカーペットを敷いたり、椅子を持ち込んで頂き、気の合う利用者様と気軽に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物や、思い出のある物を自由に飾って頂き、その人らしい雰囲気の中過ごせるよう工夫しています。自分で作った作品やご家族の遺影などそれぞれ違った部屋になっています。	鏡台やチェスト、テレビなど使い慣れた物を持ち込んでいる。家族や行事の写真、作品など飾っている。家族の遺影を置き毎日手を合わせている方もいる。利用者自身の電動アシスト自転車のバッテリーを居室で充電している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、やれる事は自身でやって頂き、見守るようにしています。危険な事があればヒヤリハットや事故報告書で周知し、安全対策をしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172500247		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム神戸ひまわり		
所在地	岐阜県安八郡神戸町加納178番地		
自己評価作成日	令和4年12月2日	評価結果市町村受理日	令和5年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;i_gyosvoOd=2172500247-00&amp;SerViceOd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;i_gyosvoOd=2172500247-00&amp;SerViceOd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和5年1月9日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「口を出さない。手を出さない。見逃さない。」の理念をもとに業務にあたっている。3施設合同で理念の共有の為の勉強会を開催し、実践につながるようになっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になり以前のようにボランティアさんに施設内に入って頂き行う事が難しくなりましたが、中庭で行えるボランティア行事や生花の材料だけ提供して頂き施設内で再作して完成した写真をインスタ等に上げています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が変更になり以前のような地域貢献が出来ていない。神戸町の認知症啓発事業に利用者様と一緒に参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍、管理者の変更により8月・10月が行えていないが12月を行うように計画中です。そこで、色々な意見を頂きより良い施設になります。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市町村を訪問して、現在の情報や、ひまわりでできる事を相談している。市町村からの要望に答える様に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除」スローガンを提示しています。職員の中で、権利擁護推進員養成研修を受講し、年2回の勉強会、3か月に1回の身体拘束排除委員会の開催などを通じて全職員が認識するようになっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修で、虐待について勉強しています。職員同士が虐待がないかお互いに確認し合い、虐待防止・早期発見に努めています。特に言葉遣いを職員同士チェックしています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人申し立ての相談を受けたり、地域のNPO法人と連携し、成年後見人の申し立ての手続きのサポートをお願いして後見人を付けた方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や運営規定・サービス内容説明書をホーム内に張り出しています。入居者及び家族にわかりやすく説明しています。わからない事があれば、理解や納得できるまで説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族会もしくは家族面談を実施して意見や情報交換をする場を設けています。随時、苦情やご意見を頂いたときは記録して改善に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、施設内ミーティングをして、職員からの意見や要望を聴いています。その他、急を要する意見は随時お聞きして、早急に対応しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	岐阜県介護人材育成事業者認定事業に申請し、職場改善に努めています。現在はグレード2です。職場環境の改善をしています。年2回職員人事評価や面談を実施して、働き方の変更やスキルアップに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の外部研修の計画を立て、職員のスキルアップをしています。法人内でも合同研修を実施して学ぶ機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は出来ていたが、管理者・施設長が変更になり今現在は出来ておらず、今後新しいネットワークが出来るように検討中です。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人が不安や困っている事、本人の希望する生活の把握に努めています。入居により環境が変わり新たな困りごとが出てきた時に随時対応して不安なく生活が送れる様に支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や来所時に、不安に思っている事や要望をお聴きし、お互いに納得や理解を得ながらサービス提供しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族には面談時に施設内を見学して頂き、質問をして頂いています。またその方にあつた施設やサービスの紹介も行っています。施設に慣れて頂ける様に1ヶ月のケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員であったり、生活を共にするパートナーとして、喜怒哀楽を共にしていける関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者様と一緒に馴染みの店に補聴器の掃除や調整をしに行っていたき、その手入れの方法などをお聞きしている。週2回面会に来られるご家族様に細かい事もお話しして介護に生かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行っていたスーパーや衣料品売り場に買い物に出かけ、入居前と変わらない関係が持てるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の個性を把握して、その方が孤立しないように努めています。話が合う利用者の方がいれば、席を一緒にしたり、合わない方がいれば、職員が間に入り少しでも関わりが持てるように支援しています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できるように窓口を設けてあります。またほかのサービスを要望されるときには情報提供して今後の生活の支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方がどんな生活がしたいか、昔からやっていた事など、普段の生活で聴き取り計画の中に取り入れながら支援しています。意思疎通が困難と思われる方の希望・意向は本人の立場に立って考え、ご家族の情報等を踏まえて検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況をご家族・かかりつけ医、関係者等から情報収集を行い、既往歴・生活状況・性格など把握し、サービスにつなげる事ができるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各棟の会議などで利用者の1日の生活パターンを情報収集して把握しています。心身の状況は専門知識が必要な場合は、医師や看護師に相談し支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い変化を記録に残し、ケアプランの変更時には担当者会議を行い、ケアプランを変更している。途中で大きな変化があった時は、記録に残し一時的なものかプランの変更が必要か検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の生活状況、バイタル、排泄、水分量、食事摂取量、服薬などが記録されています。ケアプランに沿ったケアの実践・結果や気づいた事を記録し、情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出や買い物、通院(提携医以外)などそれぞれ必要な場合、本人・家族の状況に合わせて柔軟な支援をしています。身寄りのない方の役所手続きなど支援しています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方から情報を頂き、地域の文化祭・地域の行事などに参加しています。定期的に地域のボランティアの方に来て頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は提携医として、病院・認知症医療疾患センター・歯科医などと協力しながら、往診、通院の体制が整っています。家族の要望で提携医以外のかかりつけ医を診察される方には日々の情報提供しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異常がみられた場合、看護師に伝え、必要であれば診察を受けられる体制が整っています。夜間や緊急時も速やかに受診できるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師を中心として、入院前の利用者の症状、様子などを医師に報告して、早期退院に向けて病院関係者との関係作りに努めています。入院中も本人の様子を把握したり、ご家族との情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向に沿い、医師・看護師・介護士等が話し合いターミナルケアにも取り組んでいます。様態が急変した場合はその都度ご家族に連絡し対策を検討し、ケアプランに反映させています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修を受けたり、施設内で緊急時マニュアルを使って研修を行っています。個別に起こる病気の急変や事故で対応方法がある場合は周知し全員が把握できるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器・スプリンクラー・通報装置を設置しています。年2回夜間想定での避難訓練・通報訓練・消火訓練を実施しています。食料備蓄3日分あります。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の思いを尊重して、その人にあった支援を心がけています。利用者を中心として考え、人生の先輩であることを意識し、声掛けや対応に注意しながら支援しています。プライドを傷つけないように配慮して対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様にいろんな選択肢を用意し、自己決定できるように支援しています。食事のメニューに意見を取り入れたり、買い物・喫茶店・外出など個々に決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を考慮して、本人のペースで過ごして頂いています。家事活動など本人がやりたい事を職員と一緒にやっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の始めに鏡の前で身だしなみを整えてもらえるよう支援しています。自分で化粧される方や髭をそる方にはうまくできない所を手伝ったり、お気に入りの服を着て頂ける様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや千切り・盛り付け作業をお願いします。食器洗いやお盆拭きなど、本人の調子に合わせてやって頂いています。リクエストメニューを取り入れ、好きな物を提供出来る様にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量は1000cc～1200cc補給できるよう工夫しながら支援しています。栄養摂取量が少ない利用者様には栄養補助食品や好みの物を食べて頂いています。また、食事制限(禁止食材)がある利用者様への対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕、出来る限り自身で歯磨きをして頂き、できない所は手伝っています。就寝前に義歯を外し洗浄剤につけています。歯科医師や歯科衛生士の指導の下、チェックして適切な治療を受けています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の記入をして排泄パターンを把握し、定期的にトイレ声掛けしています。1人1人に合わせたサイズやオムツなどを使っています。専門家による講習会も開き、オムツのあて方や使い方を学んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、食事やおやつなどで乳製品を摂取出来るようにしています。排泄の記録を確認しながら、便秘が続けば医師に相談しています。また体操や適度な運動も進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに週2回以上入浴して頂いています。毎日入浴したいという要望の方には、できる限り対応しています。着衣着脱・洗髪・洗身が自分で出来るように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた時間で起床・昼寝・就寝が出来るように支援しています。不眠や昼夜逆転がある場合は、日中の活動を工夫したりしています。医師とも相談して改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が支援しています。必ず名前・日付・飲み残しがないか職員2名で確認しています。服薬に変更があれば薬の名前を申し送ったり、服薬ファイルが確認できるようになっています。万が一誤薬があった場合、看護師に報告し医師の適切な判断を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段のかかわりで楽しみや喜びを把握し、1人1人に合った支援をしています。買い物好きな方には一緒に出掛けたりしています。食器拭きやおしぼり畳みを日課にされている方も見えます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行きたい所を聴いて、外出計画を立て出かけています。個別に喫茶店や銀行・役場など本人と一緒に出掛けたり、買い物はお菓子や畑の苗、衣類などほしいと言われる物を買っています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に合わせて、お金を所持できるように支援しています。ほしい物があれば職員と一緒に買い物に出かけたり、本人様が自己にて買いに行かれます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけられるように支援しています。年賀状や手紙のやり取りが出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースにはソファやテレビが配置されて、ゆったりと過ごせるようになっています。自然に自分の座る場所が決まってきました。日付がわかるように日めくりカレンダーをめぐってもらっています。季節の歌や飾り・行事の写真を壁に貼っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の居室にはカーペットを敷いたり、椅子を持ち込んで頂き、気の合う利用者様と気軽に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物や、思い出のある物を自由に飾って頂き、その人らしい雰囲気の中過ごせるよう工夫しています。自分で作った作品やご家族の遺影などそれぞれ違った部屋になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、やれる事は自身でやって頂き、見守るようにしています。危険な事があればヒヤリハットや事故報告書で周知し、安全対策をしています。		